

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470200900		
法人名	株式会社 ケア・リンク		
事業所名	はびね別府(グループホーム2階)		
所在地	大分県別府市天満町 2-17		
自己評価作成日	平成25年1月28日	評価結果市町村受理日	平成25年7月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成25年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2階フロアは重度認知症の方が多く、身体機能も低下しており、常時見守りや介助が必要な方が生活している。ご利用者様の普段の様子をよく知り、表情や仕草から体調や訴えを読み取り介護する知識と技術が必要である。現在の機能を可能な限り維持できる様に過剰な介護をしない様に心掛け、出来ない部分のみ声掛け・見守りや介助を行い、認知症の進行や体力低下を防ぐ努力をしている。言語によるコミュニケーションが難しい方が多いため、非言語的コミュニケーションも大切にして笑顔や優しい声掛けやスキンシップを行っている。介護に必要な研修を毎月行っており、外部研修にも参加している。常に自己研鑽に努め、ご利用者様中心の介護を心掛け、ご家族様とも、面会時や電話・メールでタイムリーに情報交換を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の支援体制がしっかりしており、ホームの職員も地域の行事に協力し、頼られる存在となり、地域の会議場所にホームを提供して、近所の方が自然と集まっている。利用者の方の思いを把握して、ケアプランに活かし、その人らしく暮らせるよう支援している。介護度の高い人が多くなっているが、毎日、階段昇降でリハビリをしており、避難訓練や日々の生活に活かされている。また、毎日、足浴によるフットケアを行い、浮腫みが防げ動きやすくなっている。職員は理念に向かって具体的に取り組み、利用者本位の質の高いケアを目指している。家族との連携を深めるためメールも活用して連絡を取り合っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念・施設理念を理解し、社員の心得として『日常の五心』を毎日唱和し、日々実践するよう努めている。常に『利用者中心』を念頭に置き、判断するようにしている。	理念に基づいた活動発表が全国グループで開催、頑張りを評価する制度があり、職員は実践に向け積極的に取り組んでいる。日常の五心を見える位置に掲示し、スタッフと利用者で唱和している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区行事の会場に施設を提供したり、施設の行事に協力して頂いたり助け合っている。地区回覧板で『はびね新聞』を掲載し、地域の方に施設を理解していただいている。先日、住民より車椅子を寄付していただいた。	職員は、隣接した公民館で開かれるイベント準備の手伝いや参加をして、地域の方々とともに活動し、頼りにされている。地域の会議にホームを提供し、夜間や休日は地域の方が集まっている。利用者も地域行事に参加し、毎年ご近所の方と餅つきをしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の介護相談を受けたり、介護保険制度の利用方法を説明したりしている。また、中学校や看護学校や介護の実習生・製薬会社の実習生を受け入れ認知症介護についての理解に協力している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議で運営状況や取り組みを報告し、地域の方の協力が必要な場合は自治会長・民生委員を中心に協力してくださっている。また、施設内の巡回もして頂き、施設内の様子を観察して頂いている。	会議の中で地域の行事や情報が伝えられ、利用者の支援に活かされ、地域に還元されている。会議時に災害訓練に立ち会い、感想を出し合い、避難場所や協力を地域に呼びかけ、反映されている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設運営において困った事など、市役所に電話や直接出向いて相談をしている。また、別府市グループホーム連絡協議会より依頼して、毎年講演会の講師をお願いしている。	行政に対して、市内グループホーム協議会から講演をお願いして、情報の共有に努めている。運営推進会議の会議録を毎回、持参して内容を提出している。運営での疑問や困った時は気軽に相談をして、指導を受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0委員会で管理し全体会議で全職員に報告し、学習会も行い拘束しない介護を実践している。出入口に自動ロックが設置されているが危険防止のためとの評価を利用者・家族・地域の方に頂いている。	身体拘束は一切しておらず、拘束をしないための工夫をしている。車の通りが多い立地から、安全優先のため入口のセンサーを設置しているが、外出しようとした時は寄り添って歩くようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置しており、施設内研修を頻回に行い、虐待防止について学習している。虐待が発生するような因子を作らないように環境を整え、風通しの良い関係を構築している。			

事業者名：はぴね別府

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について研修会を行い、理解に努めている。また、閲覧できる資料を設置しており、身元引受人様にも必要時説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は読み合わせを行いながら、都度質問等があれば伺い、十分理解して契約していただくように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話・メールで情報交換を密に行っており、年2回の家族運営会議や年1回の家族アンケート調査でも意見を頂き、速やかに対応を行っている。アンケート結果についても情報開示している。	家族運営会議や家族アンケートなどで意見の出しやすい配慮をしている。また、メールで家族と意見を聞き取り、支援に繋げている。利用者の運営会議を開催し、食べたいもの、行きたい所などの思いを引き出している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長は申し送りに参加し、直接スタッフと意見交換を行いタイムリーに対応している。ケースカンファレンスや各種会議でも意見交換を行い、職員全員の意見を収集するためにアンケート調査も必要時行っている。	申し送りで職員は意見を出し合い、提案している。一人ひとりと面談をして出された意見を実践に活かしている。職員全員のアンケート調査から、些細な意見を収集するよう試みている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に人事評価を行い、スタッフが向上心を持って働けるようにしている。現在、正社員化を進めており、更に就業条件が良くなる様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を毎月行い、外部研修にも種々参加して、働きながら自己研鑽できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別府市グループホーム連絡協議会の研修会や交流会に参加して情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず訪問調査に伺い、必要としている介護や不安の内容を事前に把握しておき、入居後はその情報を土台にして更に観察して、利用者様が安心して過ごせるよう介護している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の訪問調査時に十分意見交換を行う所から始まり、面会時の状況報告や電話・メールで情報交換、月1回の定期報告で写真入りの「コメント」で生活の様子を報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様を中心にご家族・主治医・ケアマネ・MSW等と連携を持って取り組んでいる。必要な場合は他施設を紹介したり、可能な限り支援するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援に沿ったケアを心掛けており、家事などで出来る事は一緒に行い、「ありがとう」の感謝の言葉を言い合える関係である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と職員は互いに情報を送受信しながら、入居者様が健康に安心して、楽しく生活できるよう協働している。家族会等の参加者も多く、大変協力的である。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人の面会のご家族からの制限が無い限り自由に面会して頂いている。届き物があれば、お礼の電話を掛けて話して頂き、関係が保てるように努めている。元生徒さんや元同僚が面会に来られたりする。	利用者の意見から、思い出の場所や外食など行きたい所へ出掛けている。大正琴やピアノの生徒が訪問して馴染みの関係を継続している。思い出の場所へは、泊り掛けで出掛けることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースにて、スタッフが間に入り、コミュニケーションを図ったり、レクを行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も次の施設に面会に伺い、関係を続けている。残された家族が高齢の場合は時折連絡を入れ、話しを伺ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の意向を把握するためにセンター方式を取り入れる計画であったが運営会社の変更等で今年度は取り組みなかった。来年度は学習会を開始し、取り組みに向けて行動する予定。	一人ひとりの思いや意向をじっくりと聞き取り、生活歴は詳細に把握している。アセスメントは、大きな字体で書き込み、分かりやすく読みやすい配慮をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の訪問調査やご本人やご家族からの情報、または面会者との会話の中から情報を得て、スタッフ間で共有し、レクや生活に反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル・食事量・排泄状況など記録に残し、健康面や精神面においても些細な変化も見逃さないように注意深く観察している。また、状態を詳しく記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様やご家族の要望を伺い、カンファレンスで最善の介護を提供できるようケアプランを作成している。定期的には勿論、状態の変化があった場合は都度モニタリングを行い、ケアプランに反映させている。	アセスメントを基に、具体的なプランで、実践しやすい内容である。その人らしく楽しく暮らせるよう、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など専門職の意見も取り入れ、定期的なモニタリングで随時、状態に応じた介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録に残すと共に、口頭および申し送り簿にて確実に申し送り、素早く対応出来るようにしている。また、その内容はカンファレンスでも活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多忙なご家族にはメールで様子を知らせたり、高齢で来館できないご家族には写真入のコメントを郵送したりしている。また、デイサービス利用者と交流できる合同行事も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練に地域の方が参加して下さったり、定期的な踊りのボランティアや餅つきのお手伝いなど、様々な方にご協力頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症専門の内科医と歯科・皮膚科・泌尿器科の定期往診も受けている。希望の専門医への受診も自由で利用者様やご家族の希望を優先している。他科受診の付き添い依頼があれば受診介助もしている。	近隣に認知症専門医があり、その他専門医も希望の所で受診可能である。個々に馴染みの医療が受けられ、訪問マッサージでは、血行もよくなり、生活の質がアップしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤・非常勤の看護師と介護職員は日頃より情報交換を密に行い連携しており、急な状態変化にも問題なく対応出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書等での情報提供に加え、面会時にも医療者と情報交換を行っている。家族の希望で医師の説明に同席し、早期に退院できるよう施設側の受け入れ態勢を考慮した対応ができています。医療機関との連携について日本認知症予防学会で発表しました。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りについてご家族と話し合い可能な限り支援する事を指針を示して対応している。看取りについては主治医と協力しながら、ご本人・ご家族の意向を受け、プラン作成を行い、ご家族を支えながら一緒にケアを行っている。	看取りの方針を研修して、家族や本人と話し合い、状態に応じた支援をしている。それぞれの職種でできることを示して、看取りの支援計画を作成し、医療機関と連携して取り組んでいる。状態の変化で医師が駆けつける体制もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急対応の研修を行っており、外部研修にも参加している。また、消防署主催の普通救命指導も受講しており、必要時に対応できるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、避難訓練や緊急連絡訓練等を行い、災害時に職員が冷静に対処出来るように訓練している。年1回は消防署立会や地域の方参加の訓練も行い協力体制を築いている。	避難訓練を毎月行っている。日常生活の中で階段昇降を取り入れ、2階や3階でも避難できるよう支援している。夜間想定訓練や地域を巻き込んだ訓練を実施し、地域の支援体制もできている。 Consent 周りの埃や汚れを掃除し防災に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修会で学び知識を深めており、ご利用者の人格を尊重し、尊厳ある暮らしが出来るよう介護する事を心掛けている。言葉の理解が難しい方へも笑顔で接し、不安なく生活できるよう援助している。常に適切な介護を行うよう努めている。	理念にプライバシー保護を掲げ研修も行っている。プライドを尊重し、できるだけトイレでの排泄支援に心掛けている。また、重度化して不安な方には、笑顔で接して安心できるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	重度の方は言語による表出が難いため、仕草や反応から思いを読み取りケアするように努めている。表出出来る方には都度伺いしながらケアさせていただき、思いが実現できるように援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調に合わせて自室で食事介助を行ったり、食事に時間を要しても出来る限り自由にご自分で召し上がって頂けるように援助している。また、好きな食べ物や飲み物を準備して、召し上がっていただいたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみが乱れないよう気を付けて援助しており、理容師による散髪や顔剃りを受けたり、希望される方は外部の美容院にお連れしている。行事に出席する時はお化粧をしたり、オシャレをして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事介助が必要な方が多いため職員と一緒に食事できないが、業務に流されない様に出来るだけご自分の力でゆっくりと食べていただける様に努めている。食後の片付けは、出来る事を手伝って頂いている。	食べたいものをメニューに入れ、食べやすい調理方法で口から食べることを大切にしている。食べたいものを個別に買って、好きな時に食べることができる。職員と同じ食事をおなじテーブルで家族のように楽しい雰囲気過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1時間毎に様々な飲み物を提供し水分管理を行い、食事は摂取状況を元に栄養士に相談しながらバランス良く召し上がって頂けるよう工夫している。食事量・飲水量共に記録して健康管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず歯磨きを行って頂く。介助が必要な方は職員が介助する。また、口腔リハビリも行い口腔機能が衰えない様に努めている。就寝時は義歯を預かり、洗浄殺菌剤に浸して清潔に管理している。		

事業者名：はびね別府

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿便意の表出の癖を把握したり、失禁間隔を把握して失禁前に誘導し、可能な限りトイレで排泄できるよう心掛けている。夜間も個々の排泄間隔からトイレ誘導を行っている。	排泄パターンや、小さな表情や動きからトイレへ誘導して、トイレで排泄するよう支援をしている。重度化した方でも、リハビリパンツを利用して、トイレの誘導へ促している。階段昇降の効果があり、歩いてトイレに行ける方が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜類の摂取や飲水量の管理に加え、乳酸菌飲料やヨーグルトやオリゴ糖などを摂取して、腸内環境を整え自然排便が見られる様に工夫をしている。頑固な便秘の方には適量の解下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は決まっているが、体調に合わせて日程を変更している。不穩時の入浴拒否には無理をせず、時間を変えたり、誘導方法を変えたり工夫して強要しない介護を行っている。	基本的には週に3回であるが、利用者の希望により一人入浴や二人入浴と個々の思いを大切にして楽しむように支援している。フットケアは毎日行っており、足のむくみがほとんど見られなくなった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを作るため、就寝時は寝間着に着換え、清潔な寝床・適切な照明で安眠できるようにしている。夜間不眠の場合は付き添ったり、スタッフルームで一緒に過ごし、眠気を催したら寝床に誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の内容は個人ファイルで管理しており、効果や副作用については観察を行い、記録に残している。症状については主治医に報告し、指示を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の得意とする楽器演奏やレクを行って頂いたり、季節を感じる行事や散歩などを実施して楽しんで頂いている。出来る家事作業は一緒に行って頂き、他者を助ける介助も見守りながら行って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度の方が多くマンツーマンの介助で散歩などに出かけている。身体機能低下により段々遠出が難しくなっているが可能な限り外出できる様に支援しており、花見や海遊びや日帰り旅行に出かけ、日常では味わえない行事も行っている。	毎日、ホームの周辺を歩き外気に触れている。車椅子でも散歩に出掛け、行きたい所に出掛けるよう支援している。個別に買い物に出掛けることや、泊り掛けのふるさと訪問やドライブなどを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される場合はお財布を持って頂いているが2階フロアは希望者がいないため、持たれていない。店で買いたい物を選ぶ方には見守りで買い物をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかける支援を行い、年賀状を出す支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	重度認知症の方が多いため、スタッフは慌しく動く事がない様に気を付け、危険のない環境に配慮している。季節感のある飾り付けを行い、明るい雰囲気にしており、スタッフとゆったり過ごせる時間を作っている。	季節ごとの飾りつけを、危険でないよう壁面を活用して雛飾りを作っている。日当たりもよく明るく、外の動きも見え、ゆったりと過ごしている。加湿器を使わずタオルをかけて乾燥を防いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者同士でソファで寛いだり、自由に歩いたり、それぞれが自由に安全に過ごせる環境にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各室、ご本人やご家族の希望を伺い、使い慣れた家具や馴染みの物を置き、落ち着いて生活できる空間となっている。	個々の入り口には、一人ひとりの目標を掲示、利用者と話し合い本人の思いや個性を五・七・五調でまとめ、書道で書き飾っている。仏壇、写真、大正琴、化粧などを持ち込み、ベットや家具のレイアウトも使いやすい工夫をし、落ち着ける部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	重度認知症や身体機能低下した方が多いため安全に配慮した環境を心掛けており、夜間はセンサーを設置し、直ぐに駆けつけ援助が出来るよう工夫している。また、過剰に介助せず、見守る事も大切にしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470200900		
法人名	株式会社 ケア・リンク		
事業所名	はびね別府(グループホーム3階)		
所在地	大分県別府市天満町 2-17		
自己評価作成日	平成25年1月28日	評価結果市町村受理日	平成25年7月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成25年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

狭い空間ではあるが家庭的な雰囲気を大切にし、ご利用者様と一緒に出来る家事を行いながら生活している。壁面にはご利用者様の作品や写真を掲示し、思い出話が出来環境を整えている。認知機能や身体機能低下の予防の為に脳トレーニングや運動レクを行っており、嚥下機能の維持や肺炎防止のために毎食前に筋力アップ訓練や口腔体操も行っている。ご利用者様の希望や意思を伺いながら一泊旅行の行き先を決めたり、思いに寄り添う介護を心掛けており、ご家族様とは面会時や電話・メールでタイムリーに情報交換を行っている。外出行事の際はご家族様にも参加を提案して一緒に花見や旅行に参加して頂き、ご利用者様との思い出作りもして頂いている。介護に必要な研修を毎月行い、外部研修にも参加して常に自己研鑽に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

はびね別府(グループホーム2階)と同様

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念・施設理念を理解し、社員の心得として『日常の五心』を毎日唱和し、日々実践するよう努めている。常に『利用者中心』を念頭に置き、判断するようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区行事の会場に施設を提供したり、施設の行事に協力して頂いたり助け合っている。地区回覧板で『はびね新聞』を掲載し、地域の方に施設を理解していただいている。先日、住民より車椅子を寄付していただいた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の介護相談を受けたり、介護保険制度の利用方法を説明したりしている。また、中学校や看護学校や介護の実習生・製薬会社の実習生を受け入れ認知症介護についての理解に協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議で運営状況や取り組みを報告し、地域の方の協力が必要な場合は自治会長・民生委員を中心に協力してくださっている。また、施設内の巡回もして頂き、施設内の様子を観察して頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設運営において困った事など、市役所に電話や直接出向いて相談をしている。また、別府市グループホーム連絡協議会より依頼して、毎年講演会の講師をお願いしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0委員会で管理し全体会議で全職員に報告し、学習会も行い拘束しない介護を実践している。出入口に自動ロックが設置されているが危険防止のためとの評価を利用者・家族・地域の方に頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置しており、施設内研修を頻回に行い、虐待防止について学習している。虐待が発生するような因子を作らないように環境を整え、風通しの良い関係を構築している。		

事業者名：はぴね別府

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について研修会を行い、理解に努めている。また、閲覧できる資料を設置しており、身元引受人様にも必要時説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は読み合わせを行いながら、都度質問等があれば伺い、十分理解して契約していただくように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話・メールで情報交換を密に行っており、年2回の家族運営会議や年1回の家族アンケート調査でも意見を頂き、速やかに対応を行っている。アンケート結果についても情報開示している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長は申し送りに参加し、直接スタッフと意見交換を行いタイムリーに対応している。ケースカンファレンスや各種会議でも意見交換を行い、職員全員の意見を収集するためにアンケート調査も必要時行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に人事評価を行い、スタッフが向上心を持って働けるようにしている。現在、正社員化を進めており、更に就業条件が良くなる様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を毎月行い、外部研修にも種々参加して、働きながら自己研鑽できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別府市グループホーム連絡協議会の研修会や交流会に参加して情報交換を行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず訪問調査に伺い、必要としている介護や不安の内容を事前に把握しておき、入居後はその情報を土台にして更に観察して、利用者様が安心して過ごせるよう介護している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の訪問調査時に十分意見交換を行う所から始まり、面会時の状況報告や電話・メールで情報交換、月1回の定期報告で写真入りの「コメント」で生活の様子を報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様を中心にご家族・主治医・ケアマネ・MSW等と連携を持って取り組んでいる。必要な場合は他施設を紹介したり、可能な限り支援するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援に沿ったケアを心掛けており、家事などで出来る事は一緒に行い、「ありがとう」の感謝の言葉を言い合える関係である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と職員は互いに情報を送受信しながら、入居者様が健康に安心して、楽しく生活できるよう協働している。家族会等の参加者も多く、大変協力的である。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人の面会のご家族からの制限が無い限り自由に面会して頂いている。届き物があれば、お礼の電話を掛けて話して頂き、関係が保てるように努めている。元生徒さんや元同僚が面会に来られたりする。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースにて、スタッフが間に入り、コミュニケーションを図ったり、レクを行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も次の施設に面会に伺い、関係を続けている。残された家族が高齢の場合は時折連絡を入れ、話しを伺ったりしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の意向を把握するためにセンター方式を取り入れる計画であったが運営会社の変更等で今年度は取り組めなかった。来年度は学習会を開始し、取り組みに向けて行動する予定。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の訪問調査やご本人やご家族からの情報、または面会者との会話の中から情報を得て、スタッフ間で共有し、レクや生活に反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル・食事量・排泄状況など記録に残し、健康面や精神面においても些細な変化も見逃さないように注意深く観察している。また、状態を詳しく記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様やご家族の要望を伺い、カンファレンスで最善の介護を提供できるようケアプランを作成している。定期的には勿論、状態の変化があった場合は都度モニタリングを行い、ケアプランに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録に残すと共に、口頭および申し送り簿にて確実に申し送り、素早く対応出来るようにしている。また、その内容はカンファレンスでも活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方のため来館できないご家族には写真を添付したメールで様子を知らせたり、自宅の様子を心配する利用者には同伴してお連れしたりしている。また、ご家族と協働して思い出の場所への旅行に行ったりしている。		

事業者名：はぴね別府

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練に地域の方が参加して下さったり、定期的な踊りのボランティアや餅つきのお手伝いなど、様々な方にご協力頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症専門の内科医と歯科・皮膚科・泌尿器科の定期往診も受けている。希望の専門医への受診も自由で利用者様やご家族の希望を優先している。他科受診の付き添い依頼があれば受診介助もしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤・非常勤の看護師と介護職員は日頃より情報交換を密に行い連携しており、急な状態変化にも問題なく対応出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書等での情報提供に加え、面会時にも医療者と情報交換を行っている。家族の希望で医師の説明に同席し、早期に退院できるよう施設側の受け入れ態勢を考慮した対応ができています。医療機関との連携について日本認知症予防学会で発表しました。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りについてご家族と話し合い可能な限り支援する事を指針を示して対応している。看取りについては主治医と協力しながら、ご本人・ご家族の意向を受け、プラン作成を行い、ご家族を支えながら一緒にケアを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急対応の研修を行っており、外部研修にも参加している。また、消防署主催の普通救命指導も受講しており、必要時に対応できるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、避難訓練や緊急連絡訓練等を行い、災害時に職員が冷静に対処出来るように訓練している。年1回は消防署立会や地域の方参加の訓練も行い協力体制を築いている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修会で学び知識を深めており、ご利用者の人格を尊重し、尊厳ある暮らしが出来るよう介護する事を心掛けている。言葉の理解が難しい方へも笑顔で接し、不安なく生活できるよう援助している。常に適切な介護を行うよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中で利用者様の希望や意見を伺い、職員と利用者様とで話し合い、楽しい生活が出来るよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康面を考慮しながら、好きな食べ物や飲み物を伺い提供したり、入浴の順番の希望を伺ったり、本人の意向を伺いながらケアする事を心掛けている。お部屋で過ごしたい場合は居室にお茶をお持ちしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選んで着替えをされるが援助が必要な時は介助している。理容師による散髪や顔剃りを受けたり、希望される外部の美容院にお連れしている。行事出席の時はお化粧をしたり、オシャレをして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月「利用者運営会議」を実施し、食べたい物やイベント時の食事について意見を伺っている。職員も一緒に食事をして会話しながら楽しく食べている。体調不良時などは好物の物を作って差し上げ、喜んで頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1時間毎に様々な飲み物を提供し水分管理を行い、食事制限がある方も居られるので栄養士と連携しながらバランス良く召し上がって頂けるよう工夫している。食事量・飲水量共に記録して健康管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず歯磨きを行って頂く。介助が必要な方は職員が介助する。また、口腔リハビリは毎食前行い口腔機能が衰えない様に努めている。就寝時は義歯を預かり、洗浄殺菌剤に浸して清潔に管理している。		

事業者名：はぴね別府

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁を少なくするため排尿間隔を把握して、間隔が開いている時はさり気なく声掛けを行い、トイレ誘導している。介護用品も本人様に適した種類を選び、夜間も個々の排泄間隔からトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜類の摂取や飲水量の管理に加え、乳酸菌飲料やヨーグルトやオリゴ糖などを摂取して、腸内環境を整え自然排便が見られる様に工夫をしている。頑固な便秘の方には適量の解下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は決まっているが、体調に合わせて日程を変更する事もある。入浴時間は利用者様の希望を叶える等調整しており、入浴時の見守りはさり気なく行い、介助が必要な部分のみ行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを作るため、就寝時は寝間着に着換え、清潔な寝床・適切な照明で安眠できるようにしている。夜間不眠の場合は付き添ったり、スタッフルームで一緒に過ごし、眠気を催したら寝床に誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の内容は個人ファイルで管理しており、効果や副作用については観察を行い、記録に残している。症状については主治医に報告し、指示を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	壁紙などの作品を皆で協力して作成したり、季節を感じる行事や散歩などを実施して楽しんで頂いている。外出レクは好評の為、多く取り入れており、ご家族にも声掛けして喜んで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は随時散歩やドライブに出かけている。ご家族も参加できる花見や海遊び、外食レクや旅行レクを行っており、恒例行事となっている。		

事業者名：はぴね別府

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方はお財布を持って頂いている。買い物レクでは店で買いたい物を選ぶ方には見守りで買い物をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかける支援を行い、年賀状や手紙を書く支援も行っている。今年の年賀状は職員と一緒に考え、工夫して作成したため大好評であった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	狭いスペースながら談話スペースを作ったり、季節感のある飾り付けや利用者様の作品を飾るなどして生き生きと明るい雰囲気になっている。席配置も工夫して、トラブルを起こさず穏やかに過ごせるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話スペースで新聞や雑誌を読んだり、家事作業をしたり、気の合った者同士で楽しそうに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各室、ご本人やご家族の希望を伺い、使い慣れた家具や馴染みの物を置き、落ち着いて生活できる空間となっている。また、居室でテレビをご覧になったり、ラジオを聴いて過ごせる環境となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮した環境を心掛けており、日中・夜間センサーを設置し、直ぐに駆けつけ援助が出来るよう工夫している。過剰な介助をせず、持っている機能が低下しないように心掛けている。		